

名誉会員 宇野利雄博士を偲ぶ

森口 繁一

東京大学名誉教授

宇野利雄先生は1998年11月29日逝去されました。お生まれは1902年で、享年96歳でした。

ご経歴は概要次のとおりです。1922年に東京帝国大学理学部物理学科入学後、数学科に転科、1927年卒業。理学博士。1928年東京高等商船学校教授、1941年京城帝国大学教授、1946年東京都立女子専門学校教頭、1949年東京都立大学教授、1959年日本大学教授、1972年から87年まで日本大学理工学研究所嘱託。

私が先生のお名前に接したのは、「数値計算論」(岩波、1941年)を本屋で見つけたときでした。すっきりした理論の裏付けをもち、具体例に即して分かりやすく書かれたこの本は、航空学専攻の私にもピッタリでした。戦後航空学科がなくなり、応用数学科ができたときに、数値計算と統計学を自分の進むべき方向と定めたのも、この本の影響によるところが大きかったと思います。統計理論については、この本の付録で、一様分布に従う独立な変量4個の和の分布が、すでに十分正規分布に近いことが具体的に示されているのを見て、大いに感激した覚えがあります。

三体問題についての先生の論文を私はまだ見ていませんが、解が簡単な数式では表せない微分方程式とその数値解法とは、自然につながっているのだらうと想像しています。

富士通の池田敏雄さんがリレー式計算機FACOM128Bを開発するにあたり、宇野先生とその親友塩川新助さんが数々の助言をしたおかげで、それが実用機として世間

に認められるものになった経緯は、直接これらの方々から伺いました。同機が飯田橋の有隣電気精機株式会社富士電算機計算所で快い響きを立てているのを見た覚えがありますが、後に同型機が日本大学の宇野先生の研究室にも納められたと聞きました。

いまや広く知られている「桁落ち」という言葉を、私

が初めて耳にしたのは先生のお弟子さんである岡本彬君からでした。平野菅保君の代数方程式の多重根の精度に関する研究も、先生の学風を継承したものといえましょう。先生ご自身もプログラミング・シンポジウムで、三項方程式のよく用いられる解法について、おもしろい例を提示されたのを覚えています。 $x_1, x_2, \dots, x_n$ を求める場合、 x_n に近い方に対してとんでもない値が現れ、しかもそれを用いてさかのぼって得られる x_1 に近い方の値はまともなものになるのです。先生は

こういう話が大好きだったようです。そして、「雑音の中に隠されている真の情報を失わないためには、倍精度計算が有用である」ということを、お弟子さんたちに徹底的に教えられたのでしょう。

ここに述べた以外にも数々の大きな業績を残され、またそれらの業績のもとになった研究の態度を後進に十分に示されて、先生は旅立ってゆかれました。これからのこの分野の発展を、温顔を浮かべてあの世から見守って下さることでしょう。

(平成11年2月8日)



御 略 歴

明治 35年 4月 8日	千葉県佐倉市生まれ
昭和 2年 3月	東京帝国大学理学部数学科卒業
3年 7月	東京高等商戦学校教授
12年 12月	理学博士（東北帝国大学）
16年 4月	京城帝国大学教授
20年 11月	終戦により内地へ引揚げ
21年 4月	東京都立女子専門学校教頭
21年	厚生省統計調査部委員
24年 4月	東京都立大学教授
34年 4月	日本大学教授（理工学部）
21年～44年	教科書図書指定調査審議会調査員／委員
47年～62年	日本大学理工学研究所嘱託
平成 10年 11月 29日	逝去（96歳）

昭和 35年 4月	情報処理学会入会（会員番号6000850）
35年 4月～37年 4月	情報処理学会理事
38年 5月～40年 5月	情報処理学会副会長
平成 4年 5月	情報処理学会名誉会員

受賞	昭和 20年 6月 30日	勲四等瑞宝章
----	---------------	--------